

運河の水辺と緑を楽しむ
「運河ルート」

- 運河の水辺と緑を楽しみながら、ボート等の水面利用や散策、サイクリングができるルート
- 既に散策路が整備済みであり、これを活用することを基本とする。
- 運河沿いに並ぶ松並木が良い景観であるが、津波により松が枯れていることから、地域と一体となって従前の景観の再生を検討し、ライトアップ等の取り組みを推進する。

水辺の現況

- 運河沿いに整備された散策路は、散歩やウォーキング、通勤通学、サイクリング、生活道路などとして活用されている(新たな整備は行わず、利活用を推進)。
- 運河では、カヌーやボートの練習そしてNPOによるカヌー体験が積極的に行われており、水上利用が最も盛んなルートとなっている。
- 運河沿いには松並木が続いており、震災前には市民団体が松並木をライトアップし、運河のPR活動を進めていたが、津波により河岸の松の多くが枯れており、従前の景観を取り戻す取り組みが必要となっている。



運河沿いに散策路が整備され、運河を眺めながらの散歩や、サイクリング、運動などで利活用が図られている



運河と松並木のコントラストがすばらしい景観を形成。

震災後も学生が運河を利用してカヌーの練習を行っている。



震災後、運河沿いの松の多くが枯れている



市民団体による北上運河の松並木へのライトアップ(石巻日日新聞提供)

利活用方策

- 水辺利用や運河沿いの散策が進むよう、北上川・石巻湊公開講座等により運河を題材とした講座や現地学習会などを企画。
- 運河沿いの散策路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。



北上川・石巻湊公開講座(屋内及び屋外での講座風景)

(快適な運河沿いの散策環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散策環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。
- 津波により枯れた松並木の再生を、地域や関係機関と一体となって取り組む。



夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路

向実
け現
てに

- 県で行う堤防の災害復旧と調整し、ルートの位置づけの継続や、利活用を検討する。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや新たな利活用方策を調整していく。

川を学びと水とふれあう 「水辺の交流広場」

拠点方向性

- 運河交流館(交流と学び)、石井閘門水辺広場(活動)、中里川憩い広場(憩い)の3施設が、一つの施設とすることで拠点性を向上(⇒一体化のための整備)。
- 施設(拠点)の利活用を推進するため、使い勝手が良くなるような整備や取り組みを推進。

拠点の現況

運河交流館

石井閘門水辺広場

中里川憩い広場



- 石井閘門は、老朽化や震災による被災を踏まえて施設補修のための調査を実施中。



石積背面の沈下



開閉機の破損 (旧北上川側)

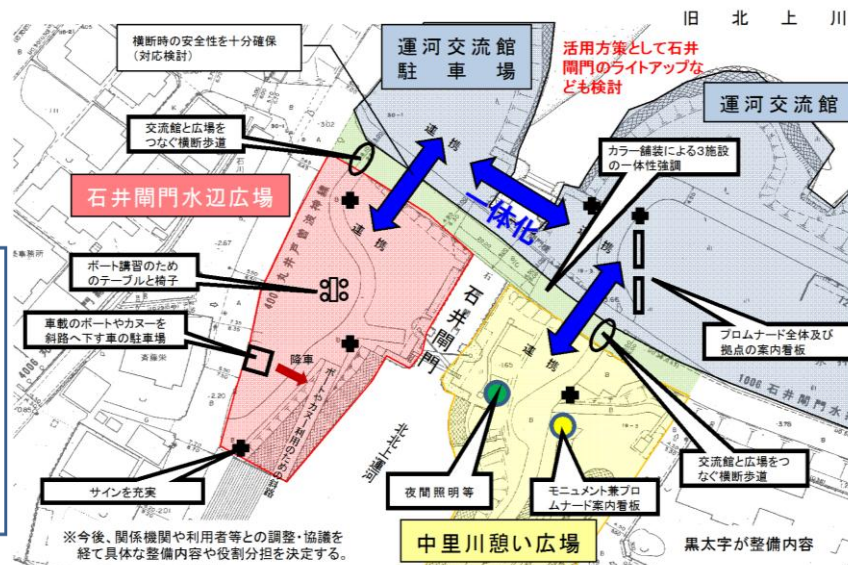
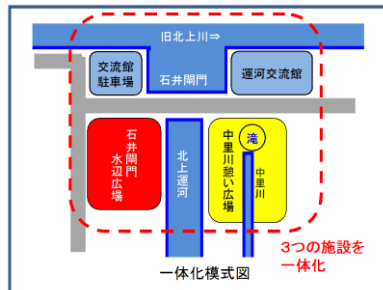
「北上川下流河川事務所HP」

実現に向けて

- 休館している運河交流館(国管理)の再開や、国で行う石井閘門の補修等も含め、利活用の基盤づくりを行う。
- 施設の利活用の推進に向けて、NPOや市民団体等と調整を図り、3施設を一体的に管理するルールや体制を検討していく(新たな管理団体の設立に向けて検討)。

拠点イメージ

- 3つの施設をつなぐ横断歩道や案内看板、サイン等の整備を行うことで、3施設が一体的となるよう工夫。また施設の利用促進を図るための駐車場(一次利用)やテーブル・椅子を整備。



利活用方策

- 旧北上川や北北上運河を学び、運河でカヌー体験をするなど子供たちが川を知る総合施設として活用。
- 拠点「水辺の交流広場」の利活用を推進するため、新たな管理体制等によるオープンカフェ等の利用や水辺学習会などの集客に関する取り組みを推進。
- 拠点の利活用推進に併せて、例えば石井閘門を見学した観光客のバスが拠点の近傍に停められるように検討。
- 運河交流館駐車場にて駐車が不足する場合は、周辺空地を検討。



水辺のオープンカフェのイメージ



NPOひたかみ水の里によるカヌー体験(石井閘門前の運河)



中里川で水生昆虫採りに夢中の子供たち

拠点



拠点テーマ

運河と緑の憩いの空間 「水と緑と子供たちの広場」

拠点方向性

- 運河と松や桜等の緑に囲まれながら、人々が憩う空間
- 既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利活用が進んでいる(新たな整備は行わない)。
- プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討

拠点の現況

- 震災・津波により運河の堤防や護岸の一部が被災しているが、堤防天端の散策路等は被害を受けず、震災前同様に地域の人に利用されている。
- 運河沿いの散策路と一緒に既に公園が整備されており、散策路を通る人たちが休憩や憩いの場所として利活用が図られている(既に拠点となっている)。
- 沿道には桜が植樹されており、春には花見の人で散策する人が多い。
- 公園には鴨が休み、ほのぼのとした雰囲気に入れ、地域に親しまれる公園となっている。



散策路の沿道には桜が植樹され、公園のベンチで休みながら桜が眺められる



ランニングしている学生たち



自転車での散策



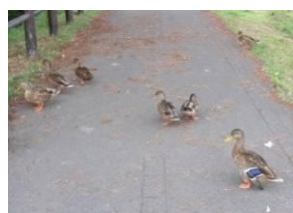
木陰で休んでいる人も



運河と桜が並ぶ景観もすばらしい



公園にある運河整備事業の看板



公園では鴨が休憩しており良い雰囲気を醸し出している

利活用方策

- 運河沿いの散策路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。
- 拠点の利活用が進むようにイベント開催などを今後進める。



ウォーキングなどのプロムナードを活かしたイベントイメージ

(快適な運河沿いの散策環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散策環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。



夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路

向実
け現
てに

- 利用者、管理者の間で施設や空間、スペースの利用ルール・管理区分等を調整していく。